

# 生徒の「生きる力」を育む体験学習

## 座談会



中村氏(左)と海上氏



細川氏(左)と司会・コーディネーターを務めた竹内氏

竹内 新しい形の修学旅行を考えた場合、生徒が他の人の家やタオを借りて体験させることに何かが必要だ。例えば、京都市清水の給付金を30分分とやる。それを物づくりに使った。暖かさは布団の生地が暖かさを伝えていたが、それは本物に触れさせたい。

海上 有田焼づくりの体験を最初の学校でやったことがあって、作り始めるその瞬間まで生徒は有田焼というお菓子を作るのが楽しかった。特別な伝統工芸みたいな体験をやって今度は自分の周りのお茶碗のことを考えてみる。自分が社会と接する時や自分の周りの物を見る時のセンサの感覚が良くなる。そういうものが変わるといい。戻ってきた時に自分の中で意味付けがされていく。分らない。

細川 民泊の前は「ホス」を体験して、

物を見るセンサー感覚が良くなる 海上氏

大学生と討論し「表現する子」増加 中村氏

岩手で被災地の現状知ってほしい 細川氏

### 体験活動推進の課題

竹内 修学旅行で体験活動をするのは、今まで以上に民間企業や問題点、ポイントがなくなってきた。海上 生徒の規模が大きい。体験活動の推進が難しい。学年が40人、300人いるとすごく大変だ。

中村 石神井高校は1学年に300人弱の生徒がいる。民泊の実施に課題がある。私一人の力では無理で、旅行先の自治体や観光連盟、大学の人が積極的に一緒に作らないといけない。意識を上げていく必要がある。行先がどこか学校に行かないと、残念ながら、それがなくなると、費用がかさむ。昔風の定型的なものにしかない。ベースで普通のものでいいのは、中学校でも高校でも、そこにプラス現地の泊費と交通費が修学旅行人たちが作ることに、全体にかけるお金の4分の一を越えている。

中村 沖縄に行く本物の課題では、教員が飛行機代がかかる。修学旅行にかけられる時間が少ない。肝心の中心にかけられない。生徒はホス。修学旅行を有意義なものがあろうと、

竹内 統計を取ると、体験活動は10%程度。竹内 統計を取ると、体験活動は10%程度。竹内 統計を取ると、体験活動は10%程度。

宿泊と交通が費用の大半占める 竹内氏

生徒数多いと質の維持が難しい 海上氏

教員の意識を変える必要がある 中村氏

修学旅行にかけられる時間が少ない 細川氏

# 沖縄修学旅行

## 生きる力を育む

～おきなわで学び、感じ、未来を創造する～

日本の最南端に位置する沖縄は、亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温 23.1℃の温暖な島々であり、2020年3月現在、世界自然遺産候補地として沖縄島北部及び西表島、奄美大島、徳之島が選定されています。

さらに、かつて琉球王国と呼ばれた沖縄には独自の歴史と文化が育まれ、個性あふれる伝統工芸や芸能が受け継がれるなど、沖縄らしい南国の魅力があふれています。その一方で、太平洋戦争において国内で唯一激しい地上戦が行われ、悲惨な戦争を体験した島々でもあります。日本本土とは異なる自然や歴史、文化に加えて、平和、環境など、さまざまな要素が学べる沖縄は、修学旅行に最適な地として選ばれ、毎年全国各地から中高生を中心に多くの学校が訪れています。さまざまな体験を通して生徒たちの心にもいつまでも鮮やかに残る修学旅行を沖縄で叶えてください。

**今後はキャリア教育・SDGs・探求学習などの要素を含んだ新たな沖縄修学旅行メニューの提供を予定しておりますのでお気軽にご相談ください♪**

様々な体験・学習を、沖縄で。

歴史

平和

文化

体験

自然

**沖縄修学旅行に行ってきました!**

嫌の中はもう少し明るい所だと思ったけど、いざ入ると真暗で息苦しくて、戦争で惨めな人たちは、こんな所で閉じ込められて動けなかったんだと思う。想像と全く違って、すごく考えさせられました。(高等学校/生徒)

生徒たちはのびのびと満喫していた。また、平和のことを真剣に考える一冊もあり、やはり沖縄は学習の場として選んでいると思った。どんなに十分な事前学習をしても、子供たちは「現地で感じる」んだなという事が1番良く分かった。(高等学校/教員)

おきなわ 修学旅行ナビ

沖縄修学旅行ナビ

検索